

1 . 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成 2 0 年 1 2 月 2 2 日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 4 0 0 2 1 7 0
法人名	有限会社 岸本総合企画
事業所名	グループホームアミティ豊中
所在地	豊中市蛭池南町 3 - 8 - 1 (電 話) 0 6 - 6 8 5 2 - 1 5 8 0

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺 1 丁目 1 番 5 4 号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 2 0 年 1 2 月 6 日

【情報提供票より】(平成 2 0 年 1 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 6 年 1 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	1 8 人
職員数	2 0 人	常勤 1 0 人, 非常勤 1 0 人, 常勤換算 1 4 . 5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	1 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	6 2 , 0 0 0 円	その他の経費 (月額)	約 2 5 , 0 0 0 円
敷 金	有 (円) ⑧		
保証金の有無 (入居一時金含む)	⑦ (5 0 0 , 0 0 0 円) 無	有りの場合 償却の有無	⑨ / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 1 日当たり 1 , 2 0 0 円		

(4) 利用者の概要 (平成 2 0 年 1 1 月 1 日現在)

利用者人数	1 6 名	男性 3 名	女性 1 3 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 8 6 . 3 歳	最低 7 4 歳	最高 9 4 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村病院、緑ヶ丘病院、黒木歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自分の身内を安心して預けられるようなホームを作りたいとの思いで 5 年前に開設し、できるだけ住み慣れた地域で暮らせるように地域の方との交流も積極的に行っています。近くの小学校から子どもたちが定期的に訪れ、ボランティアの来訪も 2 ヶ月に 1 度はあり、ホームの理念でもある「豊かに楽しい生活」を利用者も過ごされアットホームな雰囲気になっています。建物の 1 階部分には地域の方がホームを理解し、介護の相談や交流が持てるように「アミティ喫茶」と称した交流場所を設け、地域の中に根付いたホームを目指しています。経営者や管理者の幹部の方と現場の職員との距離が近く、仕事や利用者の事で相談など意見が積極的に伝えることができる関係で、その事が利用者に対するサービスの質の向上につながっています。また、研修会の参加など経営者の理解もあり職員の向上意欲にもつながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部 4)
	前回の外部評価結果は職員間にも回覧で報告され改善事項も全体会議などで検討されています。前回改善点であった運営推進会議の開催については、都合が合わず、また議題内容に苦勞されていますが、定期開催実現のための努力し、年に 1 回の開催から 2 回に増えています。他に外出用紙を作成し、外出頻度を確認できるようになっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部 4)
	自己評価はユニット毎にユニット長が各職員に意見を求め、全体会議で検討しまとめています。ユニットで検討した結果を管理者、施設長がまとめています。職員も自己評価することで業務の再確認ができ、新たな緊張感が持て積極的に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部 4, 5, 6)
	運営推進委員会の参加者は利用者、家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、市の職員が出席し、積極的な意見交換が行われています。外部評価の検討事項・改善点について話し合わせ、取り組んだ内容についても報告しています。定期開催の努力をされていますが、現在のところ半年に 1 回しか行われていません。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部 7, 8)
	新たに意見箱の設置もされましたが、主に家族の来訪時に意見や意向などを話してもらえそうな雰囲気作りに配慮しています。家族の意見などは全体会議で検討し、質の向上につなげ反映しています。月に 1 回アミティ通信を作成し、ホームでの生活の様子や行事などの報告もしています。家族の来訪時に預かり金の確認をしてもらいます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部 3)
	地域の運動会や近隣地区の餅つき大会に参加しています。自治会にも加入し町会長から地域の情報提供もあります。秋祭りにはおみこしがホームの玄関先まで来て利用者も懐かしく思い、楽しみにしています。また日本舞踊、フラダンス、漫談、歌手などボランティアも 2 ヶ月に一度は訪問があります。地域の人たちにグループホームの事を知ってもらい親しみやすい関係作りを目標に「アミティ喫茶」と称して地域の方との交流の場を提供しています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事 業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切に住み慣れた街で仲良 くゆったり、豊かに楽しい生活を」を理念に 掲げ地域との良い関係を保ちながら、利用者 が安心して暮らせるよう支援しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化され、いつでも誰でも目に着く 玄関の入口に掲げています。職員も施設長の 思いや理念を念頭に置き「その人らしさを尊 重し、一緒に助け合いながら」の関係を保ち ながら日々のケアに取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地 域活動に参加し、地元の人々と交流す ることに務めている	地域の運動会や近隣地区の餅つき大会に参加 したり、近くの小学生が毎月 1 回ホームに遊 びに来て指遊びを教わったり、利用者が行儀 を教えたりし世代間交流が行われています。 自治会にも加入し、町会長から地域の情報提 供もあります。秋祭りにはおみこしがホーム の玄関先まで来ることを利用者も楽しみにし ています。また日本舞踊、フラダンス、漫談、 歌手などボランティアも 2 ヶ月に一度は訪問 があります。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は職員にも回覧で報告を行い、改善事項についても全体会議などで検討しています。運営推進会議の開催については、出席者の都合やまた議題内容についても苦労していますが、定期開催の実現に向けて努力しており、回数も増えています。自己評価はユニット毎に検討し、ユニット長が内容について各職員へ意見を求め、共に検討し、まとめています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の参加者は利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、市の職員、自治会長が出席し、積極的な意見交換が行われています。外部評価の検討事項なども話し合われ、取り組んだ内容について報告もしています。開催については半年に 1 回しか行われていない状況です。	○	出席者の都合等により定期的な会議の開催は難しい面もありますが、今後は会議の定例化を図り、2 ヶ月に 1 回程度開催することが求められます。また運営推進会議の意義や役割を理解いただき、積極的に参加してもらえるよう働きかけていくことが望まれます。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類提出などで毎月 1 回は市の窓口を訪れ、相談などあれば気軽にできる関係作りができています。また地域包括支援センターから体操の CD を頂き健康増進等、協同できる体制ができています。事故報告は迅速に市の窓口へ報告しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族は月に1～2回ホームを訪れ、その際に現況や健康面について話をしています。また預かり金の領収書や残金の確認を行い、サインと捺印を得ています。月に1回、アミティ通信を作成しホームでの生活の様子や行事などの報告もしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新たに意見箱の設置をしましたが、主に家族の来訪時に意見や意向などを話してもらえるような雰囲気作りに配慮しています。家族から出た意見などは全体会議で検討し、質の向上につなげ反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時と比べ職員の定着が浸透してきましたが、離職については管理者が相談に乗ったりするなど最小限に抑えるよう努めています。利用者へのダメージを最小限にするため、先輩職員が利用者の状況に配慮しながら不安を軽減しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が研修参加を奨励しており、外部研修など積極的に参加できるような配慮をしています。職員も学習意識が高く個人で参加した研修もホーム内で伝達研修として積極的に行い、質の向上に努めています。新人職員に対する研修記録が確認できませんでした。	○	新人研修の研修計画を作成し、実施記録などを残すことで、ケア内容のスムーズな伝達と共有化を図ることが求められます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加入し、研修に参加しています。また、年 4 回開催される豊中市の事業者連絡会などで、他事業所と情報交換を行い質の向上に役立てています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族にホームへ見学にきてもらうことがあります。また職員が自宅等を訪問し、これまでの生活習慣を聞くなど、入居時にはできるだけなじみやすい環境作りに配慮しています。また利用者に合わせて臨機応変に対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	若い職員は戦争時代の話を利用者から聞き、その時の大変さや苦労を教えることで多くの事を学んでいます。また、空港の近くに住んでいた利用者が、「飛行機を見ると昔住んでいた家を思い出す」といった話を聞き、利用者の思いを職員も共感し支え合う関係を築いています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にも以前の暮らしや思いを利用者、家族から聞き取り、入居後も信頼関係が構築され把握できた事は生活歴追記シートを利用し、全職員で同じ情報を共有できるようにしています。利用者が職員とより交流を希望される場合、夜間であっても十分会話を楽しんで頂けるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で利用者の思いの把握や家族訪問時に希望を聞き取り、現場職員の意見も月1回のフロアミーティングやケアプラン会議の話し合いで介護計画に反映できるようにしています。医療的に注意の必要な利用者について、主治医等と往診時以外でも連携を図り介護計画作成に役立てています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っていますが、目標を毎日モニタリングする事で達成度を把握でき、目標の変更時期が分かり易くなっています。また、利用者の状態変化によって、利用者や家族、医療機関等とも話し合い必要に応じて計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急通院など家族が対応できない場合は職員が付き添っています。利用者がお墓参りを希望した際は、以前住んでいた家へ職員が数珠を取りに行くなど、利用者の要望にできるだけ応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が月に1回あります。体調不良時はその都度往診も可能になっています。数名の利用者は入居前からかかりつけの専門医へ通院を継続しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前、必要時に応じて家族とは終末期の事に関して話し合いが持たれています。職員や医師とも終末期のあり方については常に話し合う機会を持っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には守秘義務に関する誓約書を取っています。利用者に対する言葉遣いやプライバシー保護については接遇研修や会議などで徹底を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が夜間眠れない時は、職員ができるだけ寄り添い、一緒にお茶などを飲んで、落ち着いてもらえるような支援をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から食材を配達してもらい、各ユニットで調理しています。配膳、下膳、食事用マット拭き、机拭きなど利用者は積極的に協力しています。茶碗や箸は利用者自身の使い慣れたものを使用しています。おやつは時々一緒に買いに行くこともあります。今後は利用者と定期的にメニューなどについて話し合い、取り入れてはいかげでしょうか。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね 8 割の利用者は週 3 回入浴しています。以前は曜日で男女を分けていましたが、現状は月～土曜日の日中、利用者の希望に応じて入浴でき、多い方は週 4 回入浴しています。夕方からの入浴も検討事項に挙げ職員間で検討中です。本人や家族には了承を得ていますが、日常生活動作の低下により男性職員のシフトに合わせて入浴日が決まっている利用者もいます。今後は利用者の意向等を確認し、職員間で話し合い入浴支援について更に検討することが期待されます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前、仲居頭をしていた方は食事準備などを日常的に参加しています。また教師をされていた方はピアノを得意とし、誕生日会などでは皆の前で披露する機会を設け、得意分野で力を発揮できるようにしています。また昔、本を書いていた方には分からない漢字を教えてもらうなどしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の確認票を作成し、外出状況が一目でわかるように改善しています。外出希望する利用者が少ないためか、外出する機会も少なくなっていますが、職員は利用者が無理なく外出できるような声かけを行い、屋上などに誘い外気浴を楽しむこともあります。季節により玄関先の花の水やりや近所の公園や小学校に出かけています。年に数回は利用者から意向を聞き外食に行くこともあります。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解し ており、鍵をかけないケアに取り組ん でいる	建物のエレベーターにはすべて電子ロックが されており、暗証番号で開錠が可能になっ ています。暗証番号を覚えている利用者は自 身で開錠し出入りが自由ですが、初めての来訪 者や暗証番号を忘れた方は開錠が難しい状況 です。	○	今後は暗証番号を利用者の見えるとこ ろに掲示する等、利用者が自由に出入り できる工夫が求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力 を得られるよう働きかけている	年に2回消防署と協力して消火訓練と避難訓 練を実施しています。備蓄も前回の外部評価 後に改善を行い、数日分の水や乾パンを備え るようになっています。職員は2年1回消防署 の救急救命講習に参加し、ホームが市民救命 センターとして指定を受け地域にも貢献して います。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	食事摂取量、水分量はチェック表に記入し、 利用者に応じた支援を行っています。嚥下困 難な利用者にはトロミやペースト状の食事を 用意しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには皆で作成した季節毎のタペストリーが飾られ、テーブルには花を飾り、和やかな雰囲気になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクローゼットはホームの備えつけですが、ベッドは個人に合わせて自由に持ち込むことができます。使い慣れたタンスや肖像画、仏壇などを置き自分の部屋として心地よく過ごせるようになっています。		